

# 英語科教育法 I (第2講)

英語教師論



# 目次（英語教師論）

- ▶ 教師という名称について
- ▶ 理想的な教師とはどのような人であるのか
- ▶ ALT
- ▶ 免許状
- ▶ 教員免許状取得に必要な科目
- ▶ 教育実習



# 教師という名称について

- ▶ 「教師」という表現と似た言葉がある。これらにはさまざまな表現の微妙な違いがある。
- ▶ 教師：師として仰ぐという意味がある。人格的にも優れていて指導力があるというニュアンスがある。それゆえに、「理想の教師像」となると、まず、人格が優れていて、教える技能が優れている人である、が定義となる。教育論の本などでは、教師という表現が見られるが、その根底には、教師は人格者であれ、という願いがあるようだ。
- ▶ 教員：サラリーマンとして働いて給料をもらう教育産業従事者とのイメージであり、聖職という言い方とは対立する。
- ▶ 教官：官であるので、教育公務員である。国公立学校の教員を示す。
- ▶ 教諭：中等教育と初等教育で教育に携わる者を行政上で呼ぶ表現である。
- ▶ 先生：互いに呼びかけるとき。
- ▶ 教授：高等教育での教員の名称である。



# 理想的な英語教師とはどのようなものか

- ▶ (1) 英語に関する知識及び技能を持っていること。
- ▶ (2) しっかりとした原理に基づいて、生徒や児童を指導する。
- ▶ (3) プロの教師としての自覚を持ち、学びに向かう力がある。
- ▶ (4) 教育者としての高い人間性を持っている。



# 授業を運営する技能

- ▶ モデルとなる教員の授業時の動きを見てゆくと何をすべきかが見えてくる。
- ▶ 授業をはじめる。 : warm-up
- ▶ 適切な立ち位置で学習者に接する。
- ▶ 適切な声の大きさを話す。
- ▶ 一つの段階から次の段階に上手に移行する。
- ▶ 座席の配置を決める。
- ▶ 授業の効果を時々判断して、進めている。



# 自らの授業法を常に改善する

- ▶ アクション・リサーチ、PDCA（計画、実践、評価、改善：Plan- Do- Check-Action）のサイクルを回す。
- ▶ ポートフォリオを作る。
- ▶ ニーズ分析(needs analysis)、反省的な態度(reflective attitude)を記す。
- ▶ 自分の生徒への接し方がどのような影響を与えるか、反省的にみる。
- ▶ ハロー効果、ピグマリオン効果、ガラティア効果、ゴレム効果、ホーソン実験などを知っていて、授業での自分の役割を自覚できているか。
- ▶ 教室英語を駆使できるかどうか：単に英語が使えるではなくて、学習者に分かりやすい英語で授業できるかどうか。
- ▶ 確かな理論を持っているかどうかを常に反省する必要がある。



# 一方的に教えるだけでなく

- ▶ instructor, partner, coach, trainer, performer, actor, facilitator などの要素があることが要求される。
- ▶ 学習者と対話をする。
- ▶ 学習者同士がグループを作ったディスカッション、それを活性化させるための moderator, facilitator 等の役割をする。



# 英語で授業ができる教員

- ▶ 文部科学省は2013年に、国際的に活躍できる人材を育成するため英語教育に関する実施計画をまとめた。中学校の英語授業は原則として英語で行い、高校の授業では発表や討論などに重点を置き、生徒は卒業時に英検2級から準1級程度の英語力を身に付ける目標を設定した。2018年度から段階的に導入し、2020年度の全面実施を目指す、と述べている。
- ▶ 教室英語を理解する。学習者が分かりやすい英語が使えるかどうか。





# ALT

- ▶ 学習指導要領（2017年3月公示）では、小学校の5，6年生の教科「外国語」に関しては以下のような文言がある。
- ▶ 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し，授業を実施するに当たっては，ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等，指導体制の充実を図るとともに，指導方法の工夫を行うこと
- ▶ ALTとどのように連携を取っているのか。ALTを上手に指導できているのか。



# 免許状（1）

- ▶ 教員免許状には、専修、一種、二種の3通りがある。
- ▶ 二種免許状は、短大で教職課程を修めることで、取得でき、小学校・中学校の各教科の免許となる。
- ▶ 一種免許状は、4年生大学で教職課程を修めれば取得でき、中学校・高等学校の各教科の免許となる。
- ▶ 専修免許状は大学院などで取得する。



# 免許状（2）

- ▶ 専修免許は一種免許状を取得している者で、かつその教科免許を申請できる課程をもつ大学院を卒業していることが要件となる。それは、大学院で教科又は教職に関する科目などの単位を24単位以上取得することである。
- ▶ なお、近年は修士号を取得して、専修免許状を持つ教員の数が増えている。
- ▶ なお、専修免許に関しては、一種免許を保有する現職教員であれば、勤務年数が一定以上で、かつ講義・単位を修得することで専修免許を取得することができる。放送大学大学院等、大学院での通信教育や、通学制大学院の科目等履修生となり長期休業中、夜間、土曜日、日曜日の講義で単位を取得し、教育職員検定を得て取得する方法がある（この場合は、15単位以上となる）。



# 免許状のために必要な科目

- ▶ 教育の基礎的理解に関する科目：教育原理、教師論、教育制度、教育経営学、教育心理学、特別支援教育、教育課程論
- ▶ 道徳、総合的な学習の時間等に関する指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目：道徳教育の理論と方法、特別活動及び総合的な学習の時間の指導法、教育方法論、教育の方法・技術、生徒指導論、教育相談
- ▶ 教育実践に関する科目：教育実習、教職実践演習
- ▶ 介護等の体験



# 教科及び教科の指導に関する科目

## ▶ 教科に関する科目

- ▶ 英語学(英語学概論、英語の音声、対照言語学)
- ▶ 英語文学 (英語文学、リーディングス、作家作品研究)
- ▶ 英語コミュニケーション(英語コミュニケーション、イングリッシュ・エクスペリメンテーション、ツーリズム・イングリッシュ)
- ▶ 異文化理解(異文化コミュニケーション)

## ▶ 教科の指導に関する科目

- ▶ 英語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ



# 教育実習

- ▶ 教員免許状を得るためには、教育実習が必要である。
- ▶ 教育実習期間は、以下の通りである。
- ▶ 中学校の免許状を取得する場合は3～4週間
- ▶ 高等学校の免許状を取得する場合は2週間
- ▶ 小学校の免許状を取得する場合は3～4週間
- ▶ 大学や短期大学などの卒業年度の春や秋に行なうのが一般的である。
- ▶ 実習場所は母校や在住学区内の学校、もしくはは近隣の学校で行う。
- ▶ 教員採用試験への取り組み



# 課題

- ▶ 教師という名称にはどのようなニュアンスがあるか。
- ▶ 教師が必要とされていることは何か。
- ▶ 教員免許状について説明をせよ。

